

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和 2 年度採択）

事後評価結果（公表用／ソフト分野）

| 番号 | 研究名 | 研究代表者 | 評価 |
|--|--|--------------------|----|
| 2020-4 | ダブル連結トラックおよび貨物車隊列走行を考慮した道路インフラに関する技術研究開発 | 東京海洋大学 教授 兵藤 哲朗 | A |
| <p><研究の概要></p> <p>車両数の継続的な増加が見込まれている全長 23m 超のダブル連結トラックや、数年後の商用化が期待される隊列走行について、SA/PA における駐車場確保の問題や、走行区間延伸の課題が懸念されている。さらには、連結・解除を行う拠点の配置や規模、機能についても十分な分析がなされていない。本研究では、それらの課題について、先進的な実データも用いた定量的分析を加え、道路インフラが備えるべき将来像を提示することを最終目的とする。</p> <p><事後評価結果></p> <ul style="list-style-type: none">・今後の普及が見込まれるダブル連結トラックに関する、学術的な一分野を確立したと言えよう。・十分に研究目的が達成され、ダブル連結トラックや隊列走行などの導入を見据えた取るべき道路政策に対して多くの示唆を与える内容が得られている。・題目にあるような「道路インフラに関する」様々な観点から検討がなされ、設定された 3 つの研究テーマ各々について十分な研究成果があった。・施策実施のシミュレーションについての多面的な検証、また現実の動きを踏まえた検討がなされている。・ダブル連結トラック等の実現・普及に向け、研究期間中の政策・物流拠点整備等の最新の動向も踏まえながら、当初の予定を上回る数多くの有用な成果を挙げる事ができた。 <p>このことから、研究目的は達成され、十分な研究成果があったと評価する。</p> <p><参考意見></p> <ul style="list-style-type: none">・ダブル連結トラックと貨物自動車隊列走行を考慮した道路インフラとして、公共の役割が示されたことは有意義であると思う。・施策実施にあたっての費用面などの実現可能性を踏まえた言及がなされると、さらに研究の活用可能性が高まると考えられる。また、検証内容がテーマ施策以外にも活用できる可能性があると考えられる。 | | | |

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第 48 回新道路技術会議において審議したものである。